

△産業宣教 産業人の光の経済(使 2:43-45)	△レムナント伝道学 最高の機会を得たレムナント(使 18:1-4)	△核心/Remnant Day 10 月学院福音化	△散らされた弟子たち 残れる者
□序論 <u>教会、伝道(宣教)、強大国攻略(237)</u> 産業人とレムナントは教会を生かせるように、伝道、宣教することができるよう、必ず強大国攻略することができるように準備しなければならない。 1. <u>福音回復</u>を正しくすべき 2. 正しく伝道、宣教するには<u>証人</u>になるべき 3. 強大国を攻略するには<u>水準</u>が整えられるべき そうでなければ<u>奴隷、捕虜、属国</u>になる。 □本論_光の経済 1. 700 年 イザヤ以後に捕虜とされて 700 年ぶりに福音回復したのと同時に光の経済が回復した。使 2:43-47 を見れば、初代教会では一人も乏しい者はいなかった。バルナバをはじめとして、自分の畑や財産を出した人々が多い。これが光の経済だ。 1) 使 1:12-15 世界を変える集まり 2) 使 2:9-11 神様が 15 か国の門を開けられた。集まった人々がみな産業人だ。 3) 使 2:43-45、4:32-37 これが全世界を生かす光の経済だ。 使 18:1-4 プリスカ夫婦にパウロが一生福音伝えられるように祝福 2. 初めての宣教師派遣 1) 使 13:1-4 完全に聖霊に導かれる伝道者(パウロ)を助けるならば、それが光の経済に変わる。福音を防いでいたユダヤの王ヘロデの弟が宣教チームに入っていた 2) 使 16:11-15 福音の門がふさがったが、神様がものすごいターニングポイントを与えられた。マケドニアで初めて会った人がリディアだ。紫布の商人だったが完全に光の経済を回復した 3) 使 18:1-4(いのち)ローマ 16 章を見れば、完全にいのちをかけた。二千年が過ぎたが、今も働き 3. ローマ福音化 1) ロマ 16:3-4(墓)、250 年(313 年)プリスカ夫婦がローマ福音化の門が開かれたら積極的に介入。250 年迫害の後、313 年にキリスト教が国教として宣言。このようになるように伝道者を助けたのが光の経済 2) ロマ 16:23(家主)、テルティオ 3) ロマ 16:25-27 神様が隠されたこと、世々にわたって隠されていたことを与えられた ※来年レムナント大会は海外の人材を呼ぶ。今から祈り始めなさい。 □結論 <u>皆さんの祈りが完全に産業化されなければならない</u> 1. 7 つのやぐら 2. 7 つの旅路 3. 3 つの庭 皆さんの産業が三つの庭、作ることができなければならない。神様の約束だ。これを作るほどの人を神様がローマに送ったのだ。それがローマ 16 章の人々だ。	□序論 私たちに最も大きな祝福は<u>出合い</u>の祝福 □本論 1. プリスキラ-ローマ 1) 使 2:10 ここに参加した人として推測 2) 使 18:1-4 ローマから追放されてパウロに会う 3) 使 18:24-28 アポロに聖霊のパプテスマを話した 4) I コリ 16:19 コリントの自分の家がタラッパン、地教会 5) ロマ 16:3-4 ローマ福音化に先に立つ。会堂でこの人々に会ったレムナントは最高の祝福を受けた 2. パウロ 1) 使 9:1-15 キリストが直接呼ばれた人物、「異邦人と多くの王のために選んだ器」 2) 使 11:25-26 アンティオキア教会に登録してバルナバと出合い 3) 使 13:1-4 宣教師として派遣。神様がマケドニアに行けと言われる 4) 使 16:6-12 人の導きを受けたのではなく、マケドニアへ、すなわちローマの道に入った 5) 使 18:1-4 プリスカ夫婦に会って会堂へ。 6) 使 19:1-20 こういう[1]~5]パウロが会堂へ行行ったが、パウロは単なる人ではない 7) 使 19:21、23:11、27:24 無罪宣言を受けたがキリストを証しするためにローマ法廷に立つ 3. 使 18:1-4 1) パウロは安息日ごとに聖日を教え、私たちの聖日は毎日 2) レムナントが一番よくささげなければならないことが礼拝 3) レムナントが一番よくしなければならぬことが祈り □結論 <u>出合い-本</u> レムナントは出合いが簡単ではないために本で出合い、本をよく読まなければならない。どこにいてもメッセージを聞く準備ができていなければならない、メッセージを聞いて本と比較する知恵がなければならない	□序論 <u>脳 たましい 生活 = 永遠</u> 脳はすべてを左右するが、これがたましいに入り込んで生活として出るようになり、永遠のこととつながる。脳とたましいの中に受けるみことと力は、無限大だと見れば良い。 巡礼者の祈り-レムナントは一人で行かなければならないので、24 呼吸する祈りを継続しなければならない。苦しみと病んでいることが感じられないほど祈らなければならない。 1. 刻印を変えること 1) 創 3、6、11 私、私のこと、私たちというサタンの作戦 2) 使 13、16、19 悪霊文化 3) 運命 6 つ △神様の計画が何かを先に考えなければならないのに、自分を先に考えるようになっている。「私」ということが刻印されているためだ。 2. 新しい刻印-祈りによって 1) 7 つのやぐら 2) 7 つの旅路 3) CVDIP 4) 3 つの庭が作られるほど勉強しなければならない。 3. 方法 1) 時刻表を活用-私たちは神のかたち、霊的存在なので、祈りを知っている人には実像であり、証拠だ。目を覚ましたとき、この祈りを(序論 2)始めなければならない。寝るとき、深く祈るのだ。その他に活動するとき、すべて祈りに変えるのだ。 2) 生活-問題、危機、葛藤の中で答えを見つかる祈り 3) からだ(呼吸)で祈り 呼吸の技術を参考にしなさい。 □本論 1. コロ 4:7-8 全世界を生かすことに仕えたティキコの役割をしなさい。 1) パウロの様子を知らせる者 2) 愛する兄弟 3) 忠実な奉仕者 4) 主にある同労のしもべ 5) 特別に遣わす者 6) 私たちの様子を知らせる者 7) 励ましを受けるために遣わす者 2. 原色福音 理解 1) I テサ 1:3 信仰(働き)、望み(忍耐)、愛(労苦) 2) I テサ 1:5 聖霊、力、確信 3) I テサ 1:7 マケドニアとアカヤ全体にモデル。実力があれば良い。 3. 常にすべきこと 1) 喜ばなさい(答えがあるため) 2) 祈りなさい(味わう) 3) 感謝しなさい(すべてのこと)-神様のみこころを成し遂げるため 4. 偽りの再臨論 1) 時限付き終末論-イエス様は盗人のように来ると言われた。 2) 悔い改め運動-出てきて悔い改めをすることはカトリックに戻ることだ。神様の前ですべきだ。 3) 至急だということを強調 5. 伝道運動の<u>後継者</u>(II テモ 2 枚)-涙を知る者。泣くことを泣かなければならない。皆さんは霊的兵士、霊的競技する者、霊的農夫だ。特徴が 24 だ。 □結論_II コリ 10:3-5 ただ祈りの中で神様のみことばだけが強固な要塞を打ち倒すことができる	残りの者 (福音を回復する者 -使 1:1-8) 残る者 (神様が与えられる力を回復する者-使 2:1-47) 残れる者 (文化を征服する者 使 11:19-30) □本論_三つの文化を変えること 1. 偶像文化 <u>癒やし</u> 癒やしのやぐらがとても重要だ。救われた皆さんはだれでも癒やすことができる。 1) 使 13:5-12 2) 使 16:16-18 3) 使 19:8-20 2. 会堂文化 <u>サミットになる-道</u>を知らせること 1) 使 17:1 (キリストという生きる道) 2) 使 18:4(祈りの答えの答えの道) 3) 使 19:8(まことのサミットである霊的サミットの-道) 3. ローマ文化 <u>わざわざ止める-やぐら</u>を建てること 1) 使 19:21(神様の最も重要なみこころを悟ったパウロ) 2) 使 23:11(このとき、神様がみことばで祝福される) 3) 使 27:24(神様が暴風の中で奇跡)

△区域メッセージ (第 39 週) 人との疎通 (上, 下, 隣) と 25 の答え (使 18:1-4, ロマ 16:1-27)	△聖日 1 部礼拝 救われた者の背景 (ピリ 3:8-21)	△聖日 2 部礼拝/下半期全信使伝道キャンプ&国内伝道委員会献身礼拝 私たちの現住所 (ピリ 4:4-13)
□序論 脳-からだ-たましい うつ病、心の傷、痛み、がんなどで苦しんでいる人が突然たくさん増えた。それゆえ、癒やしの働きのためにレムナントにどのように祈りを教えるのかを準備しなければならない。脳、からだ、たましいは重要だ。脳でからだを治める。こういういろいろな問題は脳から来たのだ。それゆえ、ヘブ 4:12 にみことばが、たましい、霊、関節、骨髄を癒やすととなっている。救われた人は神様の聖霊がおられるので、人を見る目が違う。救われなかった人々は、人を世の中心、自己中心で見るようになる。それゆえ、霊的な状態が私に整えられなければならない。 □本論 1. 人間関係を見ると、上から私たちに祝福される神様の奥義の中で見るのだ。そのように見るとき、牧会者、重職者、副教役者は、とても重要だ。 1) 講壇を通してみことばを握れば、教役者、重職者を通してみことばが成就が起る。 2) 礼拝時間に多くの恵みを受けなければならない。 3) 礼拝を通して力を受けて、祈りの答えをあらかじめ握って行くのだ 2. 答えの現場がみな隣にあるということだ。使 18:1-4 1) ローマ (使 2:10) - プリスカ夫婦が「滞在中のローマ人」の中にいた 2) 使 9:1-15 神様が世界福音化するほどのパウロを直接倒された。 3) アテネで知識を自慢して伝道に失敗したパウロが、キリストだけを語ることを決心したとき、コリントでプリスカ夫婦に会った。パウロが知識の町であるアテネで伝道に少し失敗したが、コリントに到着してプリスカ夫婦に会った。これが私たちの隣だ。これが時代を変えたのだ。私が神様の祝福された大切な人であることを分かってこそ、隣も見える。 3. 下 (未来-RT) 1) イザ 6:13、7:14、60:1-22、62:6-12 私たちが小さく献身しても、次世代のためにしたことは必ず働きが起る。神様がイザヤにレムナントを現場に送りなさいと言われた。本当に福音 (女の子孫) が何かを教えて光を放ちなさい。彼らを見張り人として立てなさいと言われた。 2) いのちをかけたパウロ (1) 使 17:1 キリストがなぜ必要なのか (2) 使 18:4 礼拝とは何か (3) 使 19:8 まことの祈りが何かを教えた。 3) RUTC 次世代が RUTC の祝福を受けなければならない。 □結論 1. タラント (成人式) 祈ってこそ発見できる。 2. 専門性 (使命式) 専門性が何か知って行かなければならない。 3. 現場性 (派遣式) 世の中を見る目を開いてあげて遣わすのだ。	※犬どもに気をつけなさい。悪い働き人たちに気をつけなさい。肉体だけの割礼の者に気をつけなさい。(2 節) - 律法で続けて福音を防ぐユダヤ人。完全福音になると、すべての働きが起る。完全福音なのか □序論_過去を知る者は過去から解放されることができる。 1. イスラエルが奴隷、戦争、捕虜、属国になった理由を悟ったパウロ 2. 福音を悟ることができなかった宗教生活は偶像崇拜と全く同じだ。 3. それゆえ、神様がただキリストを与えられた。信じれば良い。 1) キリストを知ることが最高の知識、キリストに発見されることが最高の答え 2) キリストを悟るようになる瞬間、暗闇は完全に崩れて解放 3) 信じれば良い (ロマ 1:17) □本論_未来を生かす真の背景 ※ピリピン人への手紙-イスラエルが崩れて次世代がさ迷うことになる、その時のために与えられたメッセージ。 1. キリスト・イエスが捕えてくださった、それを捕らえようとして追及している 1) マタ 28:18-20 天と地のすべての権威がわたしに与えられている。わたしが世の終わりまで、いつもあなたとともにいる。 2) マコ 16:15-20 万民に行きなさい。わたしの名で悪霊を追い出なさい。病人に手を置けば癒やされます。 3) 使 1:8 わたしがあなたがたに力を与える。しかし (ただ) 聖霊が臨めば、地の果てまで証人になる。 2. 上に召してくださる、その賞をいただくために走って行く-時空超越の力を味わう道、祈り 1) 7 つのやぐら 祈りで 7 つのやぐらを建てなさい。 2) 7 大旅程を行きなさい 3) 三つの庭-教会、事業の場にも作りなさい 3. 御座の保証書-私たちの国籍は天にある。 1) 天の国籍を重要に思ったパウロ 2) 天の国籍を持つ者が行く所に御座と天の軍勢が動員される。 △皆さんの脳に多くの間違ったことが刻印されているから難しい。それが変わるように、心配せずに祈り始めなさい。もしかして皆さんが病気になるってもあまり心配せずに戦いなさい。変わらなければならないのだ。 □結論_光の経済 ※ピリピン人への手紙-世界宣教するように献金したピリピ教会にパウロが真理を込めて送った手紙 1. 福音回復して回復した光の経済 1) 700 年ぶりに福音回復した初代教会に 15 か国の産業人がささげた献金。 2) いのちをかけて福音を伝えるパウロが一生世界宣教するように助けたプリスカ夫婦 3) ピリピ教会の献金 2. 献金するとき、一番重要な祈りをしなければならない。世界を変える光の経済を回復しなければならない。 3. 未来に対する背景を握りなさい。過去から抜け出して、身分が変わるようにキリストを送られた。キリストの中に天と地の権威と御座を動かす力が入っている。	私たちの現住所-キリストの中にあること。「私を強くしてくださる方にあつて」 そこが「絶対やぐら」になるべきだ。仕事をするとき、300%準備しなければならない。専門性、システム、現場性。 □序論 1. 歴史上最悪の環境 (異端の濡れ衣、指名手配、ローマ属国) - これを活用してカエサルの前に挑戦したパウロ 2. 私を強くしてくださる方にあつて、どんなこともできるのです-監獄の中においても大丈夫だ。 3. 3 団体 1) 大学に絶対やぐらを建てている。 2) 瞑想大学を建てて全世界の人材に瞑想運動をさせている。 3) ネフィリム癒やしの働き 4) 金土日時代 5) Elite を訪ねて行く。 □本論 1. 伝道の絶対やぐらを作りなさい。イエス様が神の国のことを 40 日説明 1) 祈りで御座の 7 つのやぐらを建てなさい。 2) 一生歩いて行くべき 7 つの旅のやぐらを建てなさい 3) あらかじめ答えを受けなければならないこと-普通していいない。 (1) 使 13:1-4 伝道以前に答えから受けなさい。人、場所、できごと、出てきた。 (2) 使 16:6-10 門がふさがっても大丈夫だ。マケドニアに。 (3) 使 19:1-7 マルコの屋上の部屋に起こった答えそのまま起こった △この答えを体験すれば、すべてが、みな出てくる。これが祈りだ。 2. 癒やしの絶対やぐらを作りなさい。だれでも癒やすことができる。信じないだけで。 1) 神様のみことばが (1) たましい (2) 体 (3) 環境を捕らえるのだ。 2) 実際にどのようにしなければならぬのか (1) 時間-朝起きて祈り、寝る時に祈り (2) 生活-問題、危機、葛藤に答えがある。 (3) 体で祈りを味わうことができないからならない。 3) 巡礼者の祈り-道を行かなければならないので時間、環境、体を超越しなければならない。 △わたしの名で悪霊を追い出して、わたしの名で病人に手を置けば癒やされる。 3. 会堂の絶対やぐらを作りなさい。レムナントが来れば答えを得られるように。 1) 三つの庭を作りなさい。 (1) 237 の人たちと文化共感形成 (2) 237 か国を癒やしてサミットにする (3) 道を開いてあげなさい。一番重要だ。 2) 内容-使 17:1 なぜキリストでなければならないか、使 18:4 礼拝と祈り、使 19:8 神の国 (祈りと答え) 3) 金土日時代を開かなければならない理由 (1) 刻印 (2) 根 (3) 体質を変えること □結論 1. ピリ 4:7 心、思いを守られる-やぐらの始まり 2. ピリ 4:13 皆さんの現住所 3. ピリ 4:19 必要なことを満たされる。